

平成 30 年度 第 2 回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 会議録

日 時： 平成 30 年 4 月 26 日(木)

9:00 ～ 14:09

場 所： 御殿場市林業会館

1 出席者

〔御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 委員〕※敬称略

会長 渡邊 恵子、副会長 山本 裕一、副会長 湯山 有朋、小高 由佳、高村 典子、川口 勇雄、
児島 洋美、小宮山 なほみ、方壁 陽子、大割 克美、狩野 保、川口 聡 計 12 名

〔御殿場市市民協働型まちづくりアドバイザー〕※敬称略

牛山 久仁彦（明治大学 政治経済学部教授）

〔事務局(市民協働課)〕

田代課長、勝又統括、小長井、岸

2 公開提案会〔9:30～11:07〕

〔内容〕

平成 30(2018)年度御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金の審査・選考にあたり、各申請団体のプレゼンテーション、質疑応答等を実施。「御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会」の委員 14 名を審査員として、本年度申請のあった市民提案部門 4 事業(新規 1 事業、継続 3 事業)の審査を実施した。

【市民提案部門】

(1) 事 業 名： ハロウィン フェスティバル in GOTEMBA〔新規(1 年目)〕

団 体 名： 一般社団法人御殿場青年会議所

行政担当課： 観光交流課、商工振興課

〔質疑応答〕

(委員) 実行委員会の構成メンバーはどのような方たちを具体的に考えているのか。

(団体) 我々御殿場青年会議所と、行政の担当課の方、他団体(樹空の森、商工会、商店街)の方や、青年会議所の活動にも参加していただいている一般の方々に加え、一般公募の委員も含めて構成する予定。

(委員) 市子連の関係などは構成メンバーとして考えていないのか。

(団体) 現在、広く集めようということで、検討しているところ。

(委員) 以前の青年会議所のイベントについて、周知が不足していた面もあると思う。今回の事業については、楽しいイベントだと思うので、ぜひ、広く周知していただきたい。

(団体) はい。

(委員) 平成 27(2015)年に森之腰(epi スクエア)で開催したハロウィンイベントを良く覚えており、当時、「地元の商店街を回る」ことが、商工振興に繋がる非常に素晴らしいと感じたが、今回はなぜ「樹空の森」を会場としたのか。駅前や地元商店の活性化に繋がるのか疑問。

また、本事業の開催予定日の 1 週間前(10/21(日))に子供会まつりでハロウィンイベントを開催することになっているが、これとの兼ね合いをどう考えているのか。

(団体) 本イベントは、昼の部を樹空の森で行い、夜の部を駅前でを行う計画。昼の部を樹空の森で開催するのは、ステージイベントの開催や集客等を考えた場合に、ある程度の広さが必要であり、また、行政担当課の意向として樹空の森を活用していきたいという思いもあった(過去に樹空の森でもハロウィンイベントがあり、それも含めてさらに大きなものをするという考えもある)。夜の部は駅前を主会場として、そちらに集客し、商工振興を図りたい考え(どちらかといえば「大人向け」で、市外も含め駅前に集客できるようなイベントとして定着させたい考え。)

子供会祭りのイベントについては、把握していなかったが、どのような形で行われるのか確認した上で調整したいと思う。

(委員) 意図は分かるが、昼間に、地元の子ども達やママ達が、新しく駅前の魅力を知る、ということもとても大事なのではないかなと思うので、検討いただきたい。

(団体) はい。

(委員) ハロウィンイベントについては、どこの街でもやっているもので、二番煎じ、三番煎じになってしまい、他市町からの集客は難しいのではないかな。何故「ハロウィン」でないといけないのか。また、今後 3 年間はずっと「ハロウィン」イベントを続けるのか。

(団体) 様々な人が「思い浮かべやすい(分かりやすい)」イベントということが、広く参加してもらうために必要であると考え、今回、ハロウィンを採用した。確かに他市町でも開催されるが、逆にやらなければ人を集めることはできず、今後 3 年間だけではなくそれ以降も開催を続け、イベントを定着させることでより広く集客できるように努めていきたい。

(2) 事業名: 親と子の発達支援プロジェクト〔2 年目〕

団体名: 道しるべの会

行政担当課: 子育て支援課(子ども家庭センター)

〔質疑応答〕

(委員) 教室等の実施について、11 月から 12 月頃に集中して開催する計画となっているが、何か理由があるのか。もっと分散させてもよいのでは。

(団体) 11 月、12 月の予定が密になっているのは、先程の説明でも申し上げたとおり、5 月から 11 月の間、ペアレントトレーニングを月 2 回の頻度で開催しているということもあり、時間がとり難いということもあって、本事業についてはこのような計画としてある。なお、プログラミングの体験教室については、夏休みに 1 回、冬に 1 回の予定だが、前倒しすることも可能なので、日程等は調整も検討したい。

- (3) 事業名： 御殿場フィルムコミッション支援事業〔2年目〕
団体名： NPO 御殿場フィルムネットワーク
行政担当課： 魅力発信課

〔質疑応答〕

- ＋（委員） 事業の実施に苦労があるのではないかと、特に構成員数が役員数3人、会員数3人ということとで、代表者が特に孤軍奮闘しているのではという印象を受けるが、何か会員数を増やすような工夫はしているのか。
- （団体） 確かに会員という形では3名のみとなっているが、実際にはメールマガジンに登録しているフィルムサポーターが1,000人超おり、また、以前より間接的に関わってくれる人もおり、昨年度の映画まつりの際などは、6名程度、そういった方にも協力・参加いただいていることから、現状はそれに対応している。
- （委員） ロケ地については、まだまだ沢山あるので、ぜひそういった情報は多く発信してもらいたい。
- （団体） はい。
- （委員） 非常に活発な形で活動しており、成果も上がっている。今年度はHP等で海外へもPRすることだが、情報発信と合わせて、受け入れ態勢についても整備していく必要があると思うが、その点については何か考えているのか。
- （団体） 昨年、実際に行われた時は、間に制作会社を挟んでの調整であり、そういった部分は制作会社が行った。

〔団体からの意見・要望〕

- ・ロケ地の発掘・調査のための交通費について、補助対象経費として認めてもらいたい。

- (4) 事業名： 防災都市御殿場づくり体験の日〔3年目〕
団体名： 防災都市御殿場づくり体験の日実行委員会
行政担当課： 危機管理課

〔質疑応答〕

- （委員） 市民に「参加しよう」と思わせるようなPRの方法が毎年度課題になっていると思うが、今回も非常に工夫していると思う。ぜひそれらを実施して、可能な限り多くの市民に参加していただけるよう努められたい。
- （団体） はい。

3 選考会 [11:25 ~11:40 (休憩) 12:30~14:09]

〔内容〕

公開提案会でのプレゼンテーション及び質疑応答の状況、申請書の内容、及び公開提案会を受けての採点結果(順位付)、審査員からのコメント等を踏まえ、各事業の内容について協議し、補助金交付の可否や金額の満額・減額について決定。はじめの一步部門 1 事業については申請書類のみでの審査。

はじめの一步部門 1 事業、市民提案部門 4 事業について、いずれも満額で承認と決定したが、選考会で出された意見を付した上での対応となった。

【市民提案部門】

- (1) 事業名: ハロウィン フェスティバル in GOTEMBA [新規(1 年目)]
団体名: 一般社団法人御殿場青年会議所
行政担当課: 観光交流課、商工振興課
申請額: 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・若者をはじめとする多くの人が参加できるコンテンツが計画できると思います。
- ・他市でもハロウィンイベントは開催されていると思うが、他とは異なる御殿場特有のイベントとして実施できるようにしていただきたい。
- ・樹空の森と駅前商店街で場所が離れているため、盛り上がりが難しいのではないかと。またナイトメアは参加費をとって運営する方がよいのでは。
- ・他市町で実施している仮装イベントとの差異があまりにもないのが審査を悩ませる。市民参加型のコミュニティイベントとしては意義はあるかも。市への動員(経済効果)・観光面では十分な準備が必要。
- ・集客力アップのために広報活動が重要。
- ・子供達への夢を育てていくことが大切だと思う。
- ・実行委員会がしっかり機能することを願います。
- ・来年度は新嘗祭を実施してください。日本青年会議所はおむすび配ったりしています。
- ・補助金をもらわなくてもできるイベントではないかと。商店街でやるべき。
- ・他市町との差別化を考えてほしい。

〔協議内容〕

- (委員) 特に③新規性(3.1 点)、⑥モデル性(3.1 点)の評価が低い。
- (委員) 他市町のハロウィンイベントの実施状況はどうか。
- (委員) 他市町はほとんど商店街が多いのでは。
- (委員) 例えば裾野市は、裾野の市民会館、商工会議所と組んで、子ども達が楽しめるようなイベントも合わせて実施している。沼津市ではより大規模に実施している。
- (委員) 他市町の広報などを見ると、ハロウィンのイベントはそれぞれの地域で盛り上がってやっている印象。商店街のようなものがないと、子供会とか。全市的にやるのは難しいのでは。

- (委員) 今年は子供会祭りでもハロウィンイベントを開催し、また、ママ活でも毎年、時之栖でやっている。時之栖の協力も得てやるわけだから、それはそれで盛り上がるわけですよ。
- (委員) 今回、樹空の森でもやることに意義があるという説明だったが…
- (委員) それが、一番意義がない。
- (委員) やはり樹空の森を活用しようという、行政担当課の意図があると思うが。
- (委員) 街中の商店街などであれば、子どもだけでも行くことができるが、会場が樹空の森だと、(自動車で)乗せていくことができる人がいないと参加できない、となってしまう。
- (委員) どうしても内輪だけ、行った人だけのイベントになってしまう。ギャラリーが全くいない状態で、参加していない人には何をやっているのか全く分からなくなってしまう。昨年度の「富士山みくりやよってかつ祭」もそうだが、「まちづくり」をこじ開けるとなると、「あの人たち何かやっている、御殿場楽しそうだな」というのがあった方がいいと思う。
- (委員) 樹空の森を会場にしようというのは、行政側から提案したものなのか。
- (委員) プレゼンでは、行政側の(樹空の森を活用したいという)意図があるように受け取れた。行政提案部門にしてもらった方がよかったのでは。
- (委員) 青年会議所としての考えがあまり見えなかった。
- (委員) (樹空の森では)気軽には行けない場所なので、そこが少し心配ではある。
- (委員) 多分、樹空の森ではちょっと距離があるから、行政だけでは PR など手が回らないから協働で民間の力も一緒にしてやろうと、先程、行政提案部門ではどうかという声もあったが、事業内容がちょうど市民提案部門と行政提案部門の狭間のところだと思う。あれだけの施設があるのだから、樹空の森ももっと PR していかなければならないとは思いますが、行政的には限界があるのかなと思って説明を聞いていた。
- (委員) 樹空の森でイベントがあるとき、いつ行っても人がいない。
- (委員) 太鼓祭りや ACO CHILL 等は多くの客が来ている。
- (委員) やはりそういった特殊なイベントでないと、樹空の森にまでは行かないのでは。
- (委員) 敢えて樹空の森で開催するからには、それを生かした方法でやってほしい。
- (委員) 駅前商店街を考えた場合に、駅前周辺(湯沢、新橋)に、どの程度子ども達が回れるようなお店があるのか疑問。何軒もないのでは。そう考えた場合に、盛り上がりという面では難しいのではないかと感じた。商店街があまり機能していない。
- (委員) 森之腰の epi スクエアを起点にして開催したときには商店街の店舗が多数参加していた。
- (委員) 店舗だけでなく、場所探し等でもできる。
- (委員) 昨年度に駅前の飲食店が開催したイベントは、あまり盛り上がったように思えなかった。
- (委員) こちらとしては「推進協議会が持つ不安や疑問に対して、どのように実行委員会が対応・解決して、今後に繋げていってくれるのか」という提案ができればと考えている。実行委員会の構成について、公開提案会で質問したのもそれが理由。
- (委員) 今回の選考会で出た委員の意見も付した上で、素晴らしいイベントにさせていただくよう頑張ってもらふ、ということで、本事業については満額で承認してよいか。⇒ 異議なし

〔収支予算に係る指摘・意見〕

a) 景品・賞品代について

何のための景品、賞品なのか。「お菓子」をここに含めることが適切なのか。また金額についても、内規で上限を補助金額の30%までとしているが、3割がお菓子に消えるのは適切か。

⇒事務局で内容について確認・指導すること。

b) 会場設営費 200,000 円について

舞台やテント設営等を含めても、高すぎるのではないか。

⇒精算の際に事務局で内容を精査すること。

〔選考結果〕

交付の可否： 可 ※ただし本提案会・選考会で出された意見を踏まえ、対応すること。

補助金額： 300,000 円（満額）

(2) 事業名： 親と子の発達支援プロジェクト〔2年目〕

団体名： 道しるべの会

行政担当課： 子育て支援課（子ども家庭センター）

申請額： 261,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・体験型はいいと思います。個々によって悩みが違うと思うので、個々にも対応できると良くなると思います。
- ・発達支援が必要な親子に限らず、様々な障害を持つ同じ境遇の親子同士の繋がりを広げていく活動へと繋げていっていただきたい。
- ・発達障害のあるなしに関わらず、多くの子育て世代に参加してほしい内容です。
- ・行政サービス等不足と感じる支援援助を民間主導で行える、住みやすい街から住みたい街へ活動を広めていただきたい。多様なニーズに応えられる街になってほしい。
- ・プログラミング参加者が少ないのが気になる。
- ・市民への一番大切な事業だと思います。
- ・昨年度のロボットを活用できてよかったです。
- ・人数は少なくとも市と共同で取り組むことが大事。今後にも期待。
- ・地道な活動で、着実に成果が期待できる。

〔協議内容〕

(委員) 委員からは本事業について継続的に取り組んでほしい旨の、好意的な意見が多くあったが、市民協働という観点からは、行政担当課との繋がりが薄いように感じる。実際の事業化に当たって、どの程度行政担当課が本気で考えているのかが分からない。

(委員) 昨年度まで市民協働事業として Motherese(マザリーズ)が行っていた父親教室の事業を引き継いで行うとのことだが…

(委員) そういったことも含めて、行政担当課が「これは重要な事業」として市予算で実施していた

できれば、このように道しるべの会が実施しなくてもよいのではないか。行政側が逃げている印象。行政担当課側には「事業を継続していくにはどうしたらいいのか」というところをしっかりと考えてほしい。

- (委員) 市民協働事業だから直営ではどうか、という考えを行政担当課も持っているのではないか。
- (委員) 全ての事業についてはできないけれども、できる限り長く続けてもらえるような方法を。
- (委員) 団体と行政担当課との連携やコミュニケーションが、どの程度行われているのか不透明。
- (委員) 市民協働事業として3年間実施した後に、例えば市の予算化にどのように繋げていくことができるのかが分からない。3年間の実施後に、団体として独立してやっていくのか、市の支援(予算化)により、事業を継続していくのか、事業によって異なると思うが、では市の予算化に繋げていくためにはどのようなアクションをとればいいのか不透明。そういった部分が分かれば、本事業を活用しようという団体ももっと出てくるのでは。最初から「3年間のみ」となってしまうと、敢えて苦勞してまで補助金を受けなくてもよい、となってしまう。
- (委員) 以前市民提案部門で実施した「地域ねこ活動事業」などについては、市の事業として継続して実施されている。3年間事業を実施していく中で、どうやったらより効果的に事業を実施できるのかを団体と行政担当課とで調整していく必要がある。せっかくやってきた事業が、3年間だけで終わってしまうのは寂しい。
- (委員) 長期的に継続して行っていく意思があるかどうかで、最初から団体と行政担当課とが話し合っていく必要があるのでは。市民協働の補助金だけでなく、別の補助金を探してもらうなど、長期的に継続していくための工夫が必要。そのためには、市民活動団体側の意識も重要。
- 昨年度まで市民提案部門で実施していた「食育とキッズクッキング」は、別の活動団体が引き継いで今年度以降も事業を実施するとのこと。ニーズがあるかどうか。
- また、行政担当課側の意識としても、単純に「3年間で終わり」と考えるのではなく、必要なものについては色々な形で継続していくことが可能。
- (委員) 次年度予算は、前年度の10月頃には作成が始まるため、早い時期からお互いが意識して対応する必要がある。
- (委員) 長く続けられるように双方で模索しながら、2年目の事業を実施していただきたいということで、本事業については満額で承認してよろしいか。⇒ 異議なし

〔収支予算に係る指摘・意見〕

a) 印刷製本費の増加について

前年度決算額 13,067 円に対して、今年度予算額 60,000 円と増大しているが、理由は何か。
⇒ イベント、講座等の開催回数の増加か。

b) 食糧費の「お土産代」について

補助対象経費にならないのでは。
⇒ 精算時に注意して対応する。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 261,000 円 (満額)

- (3) 事業名： 御殿場フィルムコミッション支援事業〔2 年目〕
団体名： NPO 御殿場フィルムネットワーク
行政担当課： 魅力発信課
申請額： 270,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・御殿場市の魅力を市外へ発信するよい事業だと思います。今後継続していく方策を考えていくことが大切。
- ・我が街が広く世の中に映し出されることはうれしいこと。その映像に参加する、作り出す、これらの体験により、当地から映画文化が発信されたり、映画祭が行われることを希望します。
- ・メール配信利用料、HP 維持費に予算の半分を使っているが、今後の資金計画は。
- ・情報発信更に頑張ってください。
- ・市役所の HP からフィルムネットワークに飛べるようにしたらどうですか。
- ・海外や若い人にもアピール、とても良い。団体側にも市側にも増員が必要だと思う。
- ・全国的に活発な活動をしている市が多い。新しい PR に期待します。

〔協議内容〕

- (委員) 構成員数が少ない。人員の増が必要ではないか。
- (委員) 黒澤明氏没後 20 年について、何か言及があるかと思ったが、なかった。
- (委員) 団体としては、どちらかというと昨年度の映画まつりのような大きなイベントではなく、小規模なイベントを行いたい意向とのことだが、行政側が大きなイベントを要望したのか。
- (委員) HP やメールマガジンでの情報発信について、3 年間だけで終わらずに、長く続けてほしい。
- (委員) 資料 P18 に「～情報インフラであるメールマガジンホームページの年間利用料をはじめ、その他事業についても補助金終了後の継続運営を考慮し、他の財源確保を検討する。」と記載のとおり、団体としても既に意識しているので、問題はないかと思う。
- (委員) 資料 P15 に、団体の年間予算が 300,000 円となっているが、本当に本補助金以外の財源はないのか。仮に本補助金以外の財源(収入)がある場合は、ここに記載する必要がある。
- (委員) 制作会社からのリポートが団体側に全くないということはあるのではないのか。
- (委員) 制作会社との結びつけや、HP・メールマガジンでの情報発信などの事務作業が主とのこと。※ロケ地探し等で奔走する場合もあるが、基本的には PC での仕事
- (教授) それが一切、制作会社に関わらない部分で行われているのならば問題ないが、それによって何らかの報酬・収入を得ているのであれば、この部分に記載する必要がある。※収入があるから補助金を減らすのではなく、透明性向上に繋がる。個人に報酬が行っていれば問題。
- (委員) 団体としての活動を明らかにするためには、本事業だけではなく、外の事業も含めて記載する必要があるが、現在の記述では、各会員から一人あたり 10,000 円の会費を集めて、それだけで活動しているようにしか見えなくなっている。
- (委員) そういった状況が分かる方が安心できる。
- (委員) 団体名が「NPO 御殿場フィルムネットワーク」だが、NPO 法人の登録をしているのか。
- (委員) NPO 法人の登録はしていないはず。
- (教授) 「NPO」の表記はまずいのでは。誤解を招く。

(委員) 団体から、「ロケ地の発掘・調査のための交通費を補助対象経費にしてほしい」という意見があったが、どうか。

〔※事務局注〕平成 29(2017)年度に本補助金制度の見直しを行っているが、その中で本件についても協議しており、「団体の構成員に対する燃料費は対象経費としない」ということになっている。

(教授) たしか、市内のロケ地を探すにあたって自動車を使うため、その燃料費を補助対象経費として認めてほしい、ということだったと思うが、途中で個人的な用事を挟んだり、または個人的な用事で出ている最中に見て回ったり、ということで、峻別が難しいため認めないとしたと思う。例えば、何時から何時まで、市内のどこを、どの程度の距離、レンタカーを借りて回った、というように明確にできていれば経費として認めることは問題ないと思う。公用車の使用方法とも比較したと思うが、工程表や時間等を明確に示すことができれば可能では。

(委員) 団体の概要について再度事務局が確認することと、仮に燃料費を申請するにあたっては指摘した点をクリアする必要があるということで、本事業について、満額で承認してよろしいか。⇒ 異議なし

〔収支予算に係る指摘・意見〕

a) 景品・賞品代について

「チラシ配布用抽選会景品外 15,000 円」となっているが、内容は。

⇒前年度、げんきわくわくフェスタで抽選(ガラガラ)をやっていたので、それでは。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 270,000 円 (満額)

- (4) 事業名: 防災都市御殿場づくり体験の日〔3 年目〕
団体名: 防災都市御殿場づくり体験の日実行委員会
行政担当課: 危機管理課
申請額: 300,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・防災についての知識を持ってもらうことは、とても意味があると思う。災害時にどう動くのかを広められたら、もっと良くなると思います。
- ・防災は市民と行政が一体とならなければ成り立たないことであり、今後も行政でサポートしきれないところの啓発活動を継続していただきたい。
- ・多くの方に参加していただけると良いと思います。
- ・市民の大切な命と貴重な普通の生活を守るためにも、自分の身は自分で守る精神を育む必要がある。一人ひとりが防災に強くなることで、この街の良い点が高まっていくと考える。
- ・東山・二の岡地区以外への広報活動に期待
- ・自主防災について考えるきっかけになりました。
- ・多くの方が参加できる工夫をお願いします。

- ・小冊子にハザードマップや応急処置の方法なども掲載してもらいたい。
- ・子供会行事に組み入れるのはとても良い。全地域でぜひ。
- ・地域の YMCA との協調が良好な活動に結びついている。

〔協議内容〕

- (委員) 昨年度も講演会等を実施したとのことだったが、二の岡の実家の家族は誰もこの講演会等について知らなかった。地元での周知が足りず、参加者が少なかったのでは。
- (委員) 東山地区では全戸配布で案内された。チラシに気が付かなかっただけでは。なお、参加申し込みはチラシに氏名等を記載して FAX となっており、非常に面倒に感じた。
- (委員) 今年度は消耗品費として、チラシ案内、看板等で 5,000 円となっているが、少なすぎないか。今年度はどのように周知する予定なのか。
- (委員) 子供会とのタイアップも考えられているようで、昨年のように小学校にも案内が行くのでは。
- (委員) 皆、思ったよりも全戸配布のチラシは見ないで捨ててしまう。全員に周知するのは非常に難しいが、圧倒的に強いのは回覧板。ただし、アパートでは回覧板が回らないところもある。
- (委員) 行政担当課のコメントで、「3 年間の集大成」という言葉があったが、3 年間で終わりにする意図が見えて残念に感じた。
- (委員) 地域の防災訓練が、毎年度 12 月の初めに開催されるが、それとタイアップして、継続的に続けていくことも一つの方法では。3 年で終わってしまうのは寂しい。
- (委員) 今度は東山・二の岡地区ではなく、別の地域でより大きい施設を使って、というのも考えられるのではないかと。※青少年交流の家、中郷館など、これまでの手法を参考に
- (委員) 12 月の地域防災訓練については、毎年度同じようなことをやっているだけ。危機管理課に発災時の対応について尋ねても、よくわからない部分が多かった。
- (委員) 地域防災訓練は、地域による温度差が非常に大きい。
- (委員) 地域の防災力の底上げのためにも、各地域で行われるべきでは。
- (委員) 本事業について、満額で承認してよろしいか。⇒ 異議なし

〔収支予算に係る指摘・意見〕

a) 印刷製本費について

収支予算を見ると、印刷製本費 260,000 円(小冊子作成、印刷費用)が大半を占めているが、この内容は。また、何部程度作成し、どのように利用するのか。

⇒資料 P26 に記載のとおり、御殿場市版の防災啓発冊子を作成予定。配布数は検討だが、場合により企業からの協賛を募り、全戸配布も検討とのこと。

b) 食糧費について

食糧費として非常食等購入費用 50,000 円があるが、これは消耗品費に含まれるのでは。

⇒内容を見ると、訓練時に参加者で試食するようなもの。修正して対応する。

〔選考結果〕

交付の可否: 可

補助金額: 300,000 円(満額)

【はじめの一步部門】

(1) 事業名： 在来作物の伝承事業〔新規(1年目)〕

団体名： 「みくりや」農と食の研究会

行政担当課： 農政課

申請額： 50,000 円

〔コメント(審査用紙自由記載欄)〕

- ・子ども達が体験できるのはよいことだと思います。
- ・みくりやの在来作物は子どもだけでなく全世代が知ってほしい事だと思います。今後の活動に期待しております。
- ・「みくりや」の食文化を途絶えさせてはいけない。一方で事業として飲食店舗等と展開をしていくのはコスト、供給オペレーション他、難しい問題も多いかと推察する。
- ・在来作物の収穫、商品開発に期待します。
- ・日本の本来の農業かなと思います。
- ・ぜひ成功させてください。
- ・とても興味深い事業です。頑張ってください。
- ・来年度からの市民提案部門への移行に期待しています。
- ・事業内容が非常に期待できる。

〔協議内容〕

(委員) こういった事業にはできるだけ参加して、情報発信しようと努めているが、本事業についてはWEBでの情報発信をあまりやらないような方々に思われるので、協働するのであれば、次世代に繋ぐためにも、そういった面のフォロー(市HPやFBで発信・共有)を行政担当課にしてほしい。ママ活のメンバーなどは、こういった事業に非常に強い興味がある。若者向けにも、WEB媒体の活用は必要。

(委員) 全く同感。今までに無かった活動。難しいのかもしれないが、どうやったら一般の人も含めて参加できるのか知りたい。

(委員) この団体がいつできたのか、どういったメンバー構成なのか、という情報はあるのか。

(事務局) 団体は平成30(2018)年に発足、メンバーは市民のほか、高根小学校、静岡在来作物研究会(静岡大学、静岡県立大学、静岡英和学院大学、東海大学海洋学部等のメンバー)等となる。

(委員) 先程の公開提案会に、こちらの団体のメンバーもいらっやっていた。来年は市民提案部門へ、という考えもあるのでは。

(委員) 「板妻もろこしの栽培」としているが、実施場所は仁杉、上小林、古沢など、御殿場地区から高根地区。特定の地域でやっているのではなくて、色々な人たちがネットワークを作っている。会員に、種子を配布して栽培している状況。高根小学校上小林分校もメンバーになっているが、子どもたちの数も少ないため、行けば喜ぶのでは。

(委員) 「種」を絶やさないということが一つ大きな目的。

（委員） 中郷館で作っている、「みくりやの味」というみくりやの伝統食を紹介する冊子について、非常に内容が素晴らしいので、広めていきたいと考えている。

〔選考結果〕

交付の可否： 可

補助金額： 50,000 円（満額）

【収支予算の記載方法に対する指摘（事務局へ）】

a) 収支予算書の書き方について

対象外経費、対象経費を分けて記載しており、また内規上の対象経費の上限を超える部分について、対象外経費に分けて記載するよう指導しているが、本資料はあくまでも予算書であり、このような書き方はおかしい。

※例えば、「親と子の発達支援プロジェクト（道しるべの会）」の予算書で、報償費を補助対象経費に 100,000 円、補助対象外経費に 25,000 円 としているが、「報償費」は補助対象経費であり、あくまでも内規上で 100,000 円を超えないように、という基準が設けられているだけである。記載するのであれば、内訳欄にその旨を記載して対応すべき。

〔事務局〕 対応する。また、精算時の内容確認に注意して対応する。

平成 30 年度 御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金 公開提案会・選考会(4/26 開催)の結果

部門	事業名〔年数〕／ 団体名 ／ 行政担当課	交付決定額 (申請額)	補助の条件 審査員(御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会)の意見等
市民提案部門	<u>ハロウィン フェスティバル in GOTEMBA</u> 〔1 年目〕 団 体 名 一般社団法人御殿場青年会議所 行政担当課 観光交流課、商工振興課	300,000 円 (300,000 円)	・イベント内容(他市町との差別化)、会場(商工振興・まちづくりの視点)等で疑問・不安がある。公開提案会・選考会での意見を踏まえて、今後組織される実行委員会に対応いただきたい。
	<u>親と子の発達支援プロジェクト</u> 〔2 年目〕 団 体 名 道しるべの会 行政担当課 子育て支援課(子ども家庭センター)	261,000 円 (261,000 円)	・継続して実施する方法を団体と行政担当課の双方で模索しながら、2 年目の事業に取り組まれない。
	<u>御殿場フィルムコミッション支援事業</u> 〔2 年目〕 団 体 名 NPO 御殿場フィルムネットワーク 行政担当課 魅力発信課	270,000 円 (270,000 円)	・情報発信の強化に継続的に取り組んでいくために、他の財源確保や人員の増強も意識して、2 年目の事業に取り組まれない。
	<u>防災都市御殿場づくり体験の日</u> 〔3 年目〕 団 体 名 防災都市御殿場づくり体験の日実行委員会 行政担当課 危機管理課	300,000 円 (300,000 円)	・補助金の最終年度となるが、来年度以降の事業展開(モデル事業として、各地域で展開など)について行政担当課と検討してほしい。
はじめの 部門 一歩	<u>在来作物の伝承事業</u> 〔-〕 団 体 名 「みくりや」農と食の研究会 行政担当課 農政課	50,000 円 (50,000 円)	・非常に興味深い事業。情報発信を広く行うとともに、多くの方が知り、参加できるようにしてほしい。

計 5 事業 交付決定額 1,181,000 円 (市民提案部門 4 事業 1,131,000 円、はじめの一步部門 1 事業 50,000 円)

市民提案部門（平成30年4月26日（木）審査）

提案事業名		審査項目（各1～5点で採点 合計点 満点:60点 8割:48点 7割:42点 6割:36点）														合計点	平均点	順位
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
1	ハロウィン フェスティバル in GOTEMBA	4.4	3.3	3.1	3.4	3.4	3.1	3.9	3.9	3.4		3.7		3.5	3.5	42.7	3.6	4
2	親と子の発達支援プロジェクト	4.3	4.3	4.0	4.3	4.3	4.1	4.1	4.0	3.9		4.3		4.2	4.1	49.9	4.2	1
3	御殿場フィルムコミッション支援事業	4.1	3.9	3.8	3.9	4.3	3.9	4.0	3.6	3.8		4.1		3.6	3.6	46.6	3.9	3
4	防災都市御殿場づくり体験の日	4.4	4.2	3.6	3.9	4.1	3.9	4.1	4.0	4.1		4.0		4.0	4.1	48.4	4.0	2
平均値		4.3	3.9	3.6	3.9	4.0	3.8	4.1	3.9	3.8		4.0		3.8	3.8	46.9	3.9	

はじめの一步部門（平成30年4月26日（木）審査）

提案事業名		審査項目（各1～5点で採点 合計点 満点:40点 8割:32点 7割:28点 6割:24点）														合計点	平均点	順位
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14			
1	在来作物の伝承事業					4.2		4.2		3.8	4.2	4.2	4.2	4.1	4.0	32.9	4.1	1

【審査項目】

- | | | | |
|----------|---------------------------------|------------|-------------------------------|
| ① 団体の内容 | 協働事業を推進できる体制や能力が認められるか。 | ⑧ サービス性 | 市民や受益者にとって有益なサービスを提供する事業か。 |
| ② 課題解決 | 社会的課題（ニーズ）に対応し、地域課題の解決に資するかどうか。 | ⑨ 手法・形態 | 市民と行政の協働の内容が提案されているか。 |
| ③ 新規性 | 行政が見落としがちな分野で、先進性が高いか。 | ⑩ 行政支援の必要性 | 行政の支援の必要性が高いか。 |
| ④ ニーズ性 | 社会的ニーズが高いにも関わらず、これまで提供困難であったか。 | ⑪ 発展性 | 協働によって団体の発展に寄与するか。 |
| ⑤ 事業効果 | 事業を行うことで具体的な効果・成果が期待できるか。 | ⑫ 活動の継続性 | 活動の継続が前提になっているか。 |
| ⑥ モデル性 | 外の団体や地域に対して参考となったりモデル的な事業になるか。 | ⑬ 計画の妥当性 | 補助金を含めた資金面からの計画は妥当か。 |
| ⑦ 協働の理解度 | 協働の理念や原則を理解し、市民協働事業の趣旨に合致しているか。 | ⑭ 提案の方法 | 事業計画書やプレゼンテーションできちんと趣旨が伝わったか。 |